

「子ども主体の学校づくりを推進」

変化を受け入れ、 常に学び続けること

私が学校現場にいた時と比べて、教育環境の変化は激しいですね。枚方市でも児童・生徒の一人一台端末を活用したICT教育や、子どもたちが自ら考えて自分なりの解決方法を見つける課題解決型学習(PBL)など、社会状況を踏まえ、子どもたちの未来を見据えた新たな学びに取り組んでいます。「知識の詰め込み型」から「思考型」の教育への転換が求められる中、教職員、教育委員会、もちろん私も常に学び続けたいといけません。教育者として長年の経験がありますが、それに固執することなく、これまで通りの方法は今の子どもたちに合っているか、必要な内容かを考え、変化も柔軟に受け入れて、子どもたちそれぞれに最適な学びを提供していきたいです。

子ども主体の 学校づくりを

私が大切にしているのは、「子どものために学校はある」といった考えです。学校が、子どもたちにとって「行きたい」とワクワクできる場、「新たなことに挑戦したい」と成長できる場となり、対人

対応も含めた心の成長や、将来役に立つスキルの向上など社会に出ても対応できる、いわゆる「生きる力」を育める場でありたいと思っています。学校は子どもを「育てる」場所ではなく、子どもが「育つ」場所です。そのためにも、教職員や保護者、地域と力を合わせて、子どもたちがのびのびと過ごせる環境を整え、自ら考え、自ら学ぶ「子ども主体の学校づくり」を進めていきたいと考えています。

枚方の教育を 誇りに感じてほしい

私は教育長就任以前も、様々な立場で枚方の教育に携わってきましたが、他市と比べても進んだ取り組みを行っているというのが印象です。事実、枚方市教育委員会には他市からの視察も多く、全国の教育関係者が集まる場で枚方の取り組みを発表してほしいと登壇依頼もあります。デジタル庁の副大臣がICT教育の先進自治体として視察に来られ、非常に進んでいると評価をいただいたこともあります。各種取り組みは「枚方モデル」と言われるほどの評価を受けていますので、子どもたちや保護者の皆様、教職員にも枚方の教育の現状を丁寧にお伝え

して、枚方の学校に通っていること、枚方の学校で働めていることに誇りを感じてもらえるようになればと思っています。

チャレンジの大切さ

今の子どもたちは、非常にたくさんの情報に囲まれています。その中で、取捨選択し、必要なことを見極めて判断していかないといけません。目まぐるしく変わる現代社会においては、一度正解と思った内容も違う場面では通用しない場合があります。子どもたちには、一つの正解だけを拠りどころにするのではなく、状況に合わせて臨機応変に対応できるよう「常にチャレンジする姿勢」の大切さを伝えています。たくさんの新しい経験と、正解にたどり着くまでの様々な道のりは困難がある分、大きな成長につながることでしょう。また、チャレンジの中から自分の好きなことが見つければ、それぞれの将来につながる種になるかもしれません。新しいことへのチャレンジは、つい臆病になってしまいがちですが、子どもたちが夢と志をもって意欲的にチャレンジできるよう、教育長として、これからも学習環境をしっかりと整えていきたいと思っています。

教育長 谷元 紀之

Profile

昭和59年～枚方市立小学校教諭
平成20年～市立開成小学校校長
平成28年～枚方市教育委員会委員
令和7年～枚方市教育委員会教育長
趣味:お寺巡りと御朱印集め
子どもの頃の夢:パイロットになること